

菩提心

菩提心は、ここで修行したらよいとかあちらで修行したらよいとか、そういうものではないのう。菩提心はすべてなのじゃよ。菩提心は修行の基礎だし、修行の実際だし、同時にまた修行の最終的な成果なのじゃ。だから、日夜絶え間なく菩提心を修行しなければならんのじゃよ。夜中に目が覚めたとするじゃろう。そんなときに自分のことをくよくよ考えたりせずに、衆生のことや、衆生が苦しんでおることを考えるのじゃ。誰であれ、心性、つまり実相じゃな、をまだ悟っておらん者は、みな苦しみを感じるしかないのじゃ。財産があるとか、容貌がきれいだとか、権力があるとか、頭がいいとか、そういうこととはかかわりなく、ものごとの実相を悟っていない者は、ただもう苦しみを受けるしかないのじゃよ。だからあなた方は、他人の苦痛を決して忘れないようにして、勇気をふるい起して、その人たちをけっして置き去りにしないと決心し、他人が苦痛から離れられるように自分にできるさまざまなことをしようと決心するのじゃ。菩提心を通じて、「我」などは存在しないということを悟るし、我執は打ち壊されるのじゃ。どうしてかというとな、他人のことを考えるとき、自分のことは考えなくなるからじゃよ。

結局のところ、「自己」と「他人」は頭の産物でしかないのじゃ。自他の間に区別などないということがわかると、体で菩提心や大悲心の有り難さがわかるようになるのじゃね。

(『噶千語録』, p.80)